

## えそ類

えそ類には多くの種類があり、高知県水産試験場による底びき網調査の結果によると（表1）、土佐湾沖のえそ類は、マエソ *Saurida macrolepis*（写真）、ワニエソ *Saurida wanieso*、チョウチョウエソ *Synodus macrops*、ハナトゴエソ *Synodus kaianus* が多く出現します。また、表1の中で出現個体数が少ないクロエソ *Saurida umeyoshii* は、足摺岬沖に多いという報告があります（Yamaoka *et al.* 1989）。



これらえそ類のうち、漁獲対象となっているのはマエソとワニエソで、2種の比率はマエソ：ワニエソ=100：1とマエソが多くなっています。マエソはワニエソよりもおいしいとされ、高知県で作られるカマボコの最高級原料となっています。ワニエソとマエソの見た目は似ていますが、マエソよりも大型になり、マエソのように尾鰭の下部が白くならないことで区別できます。

表1 調査船調査によるえそ類の1km<sup>2</sup>当たりの採集個体数（平成26年4月～28年3月）。

属名	種名	30m	40m	50m	70m	90m	100m	120m	150m	200m	300m
マエソ属	マエソ	1.0	4.1	18.9	8.0	1.8	1.6	0.2	0.0		
マエソ属	ワニエソ			0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0		0.0
アカエソ属	チョウチョウエソ			0.0	0.1	0.8	0.5	0.7	0.0	0.0	0.0
アカエソ属	ハナトゴエソ								0.0	0.3	0.0
アカエソ属	スナエソ			0.0				0.0			
オキエソ属	オキエソ			0.0							
アカエソ属	アカエソ					0.0	0.0	0.0			
マエソ属	クロエソ								0.0		
アカエソ属	ホシノエソ			0.0							
マエソ属	マエソ属sp.		1.4	0.2							
	エソ科sp.		0.0	0.3			0.0				

※0.0:0.05未満

### 資源生態

高知県におけるマエソの産卵期は成熟指数の1つである生殖腺体指数（GSI）の推移から5月～8月と考えられます（図1）。高知県でマエソの年齢と成長は調査されていませんが、9月以降に5cm前後の小型個体が発見し、次年の5月～8月に体長20cm（全長22cm）前後に成長することから、この魚

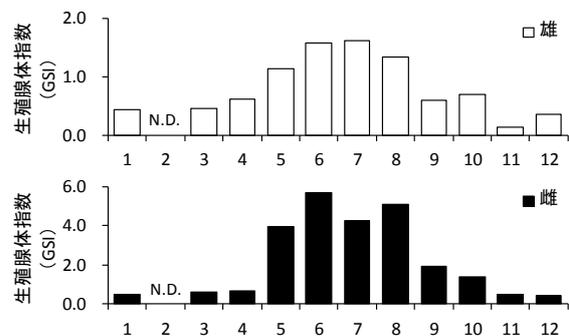


図1 高知県産マエソの月別成熟指数の平均値（平成26～28年）。

が1歳魚と考えられます。他海域の調査結果によると、瀬戸内海（多々良 1964）では雌の方が雄よりも少し大型で、1歳魚は雄が18cmで雌が20cm、2歳魚は雄が23cmで雌が25cm、3歳魚は雄が29cmで雌が30cmとされています。

マエソとワニエソの分布は水深150mよりも浅い海域で（表1）、水深50m～100mが主体となります。

### 漁業実態

マエソやワニエソの漁獲が多い漁業種は主に底びき網、その中でも2種の分布水深が重なる沖合底びき2そうびきと小型底びき網です。えそ類の水揚量は、小型底びき網で水揚量が分かっていないものを除くと、沖合底びき網（1そうびき、2そうびき）と高知市沖の小型底びき網を合わせて近年40トン前後推移しています（図2）。また、えそ類は定置網にも入網しますが、年間1トン前後とわずかです。

漁獲動向について、長期間データが蓄積されている沖合底びき網漁業のデータから考えると（図2）、昭和57年（1982年）まで沖合底びき網の水揚量（1そうびき・2そうびき）は50トン以上と高水準で、その後、大きく減少しましたが、平成20年には40トン前後まで回復しました。平成22年の水揚量は30トン前後で推移していますが、沖合底びき網の漁獲努力の減少が原因と考えられます（図2）。これらから、えそ類資源は高水準ではありませんが、低水準だった1980年代と比べると多く、最近の動向は横ばいと判断されます。

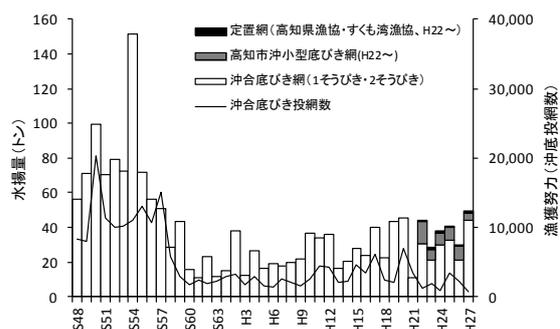


図2 高知県のえそ類漁獲量及び漁獲努力の経年変動（高知市沖小型底びき網と定置網水揚量は平成22年以降）。

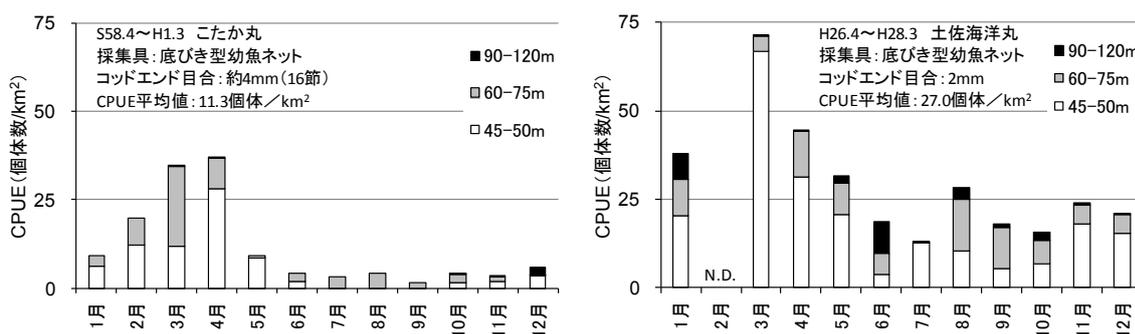


図3 調査船調査によるマエソの1km<sup>2</sup>当たりの月別採集個体数（左図は堀川（2009）をもとに作成）。

このことは試験研究機関で行われた資源調査の結果からも支持されます。マエソの採集密度を1980年代（昭和58年～平成元年、堀川 2009）と平成26年～平成28年の間で比較すると（図3）、最近の方が高くなっていました。